

視聴覚教育

月報

No. 19

発行日 35. 11. 20
 発行 岡崎市小中学校
 視聴覚教育協会
 編集 視聴覚教育協会
 編 壺 部
 印刷 岡崎市明大寺町
 株式会社 石が孔版社

Tel. 340, 2592

第12回学校視聴覚教育

全国大会に出席して

糟 谷 正 孝

京都は歴史が静かに呼吸している街である。その京都で全国大会が開催されることは、全国から集まる会員にとっては大きな魅力である。

会場は京都会館。最も新しい建物で、岡本太郎氏が画かれたかと思われるモザイクが壁面にみえる。

受付にかかる。開会まで少し時間があるので早めに展示室を見る。幻燈やカメラや映写機やスクリーンなどが、ところせまく展示されている。かたわらに美しいパンフレットがどこにも豊富にとり揃えてある。旅の恥は何とやらの気持も半ば手振って載けるものは素直にとばかりかめつく集め出したらどっしり重さを感じ

じる程になった。まわりを見ると蒐集狂はわたしひとりではなかった。

開会は第一ホールで始められた。ソフトラ椅子、高い天井、音響効果を考えた会場に二千人の会員が品よく収まる。会場正面には、

「たしかに認識に支えられた民主的人間形成をめざす視聴覚教育のあり方をもとめて」

という今日の大会の主題が大きくかけられて会場全体をみさしめている。当主題は、昭和二十六年に「学習内容の再編成と序列化」をテーマにして第四回の京都大会がもたれてから十年の歩みを表したものであるという。しかし何度読んで

もこの名言は頭にピンと来ない。開会あいさつ、感謝状贈呈など型通り進む。取材記者、カメラマンに交って会員がそこそこでシャッターをきる。視聴覚の大会らしい風景だ。開会式終了後ひき続き記念講演。「学習における認識と経験」と題して国立教育研究所の矢口新先生の新しい教育方法についての解説である。午後は主題説明、日程説明にひきつづき研究発表。講演は浜田義賢氏の「児童劇映画のあり方考え方」で大へん興味深く聞くことができた。氏はシナリオ作家である。

「児童劇映画」というものは一般公開のものど異り視野が限られたものになり易く、美談調、慶弔的な作品になり易い。評判のよかった「秋立ちぬ」にあんちゃん、キクとイサムなどの作品は子どもの世界を画いたというよりもその背後のものに焦点がむけられている。——今わたしの手をつけている二つの作品「末っ子大将」北白川風土記は甘えたものでなく、(関西流に言えばジャラ)したものでなく、大人もムキになって書いたものとしたい

午後の最後は「学校視聴覚教育の現状と本大会のめざすもの」という主題でパネ

ルがあつて第一日終了。第一ホールから開放された時はもう京の街は夜の入口にあった。会員は三々五々ほんのり染まる空を写して流れる疎流の縁を自らの方向に向かつて消えた。

二日目は分科会。幼稚園、小中学校、高専学校十三会場に分かれ、それぞれ研究主題ととり組んで部会が持たれる。わたしは二条中学に出席。研究主題は「主体的な生徒を育てるためのテレビによる指導はどうあるべきか」。全体集会にひきつづき実演授業理科発動機の研究。テレビが全部説明してしまうことが少し淋しくもあり、疑問もあった。昼食時に「番頭はんと下種どん」という研究素材の描写がある。午後研究発表、討議、父兄の方々が多数参加されて盛会だった。

三日目は再び京都会館。「今日の教育と教師」と題して森原武夫先生の記念講演で始まる。植原軍のユーモアたっぷりのお話。次いで「学校視聴覚教育今後の課題」というテーマでパネル。最後に東大岡野嘉雄先生によって大会のまとめが話された。

午前中に大会終了。午後平安神宮の時代祭りをみるべく京都会館と別れた。北海道で会いましょうという会詞を後にして。

理科

採光と通風 小五年 一卷 一分
 特殊な装置による実験等も加えて、
 どんな装置が健康上よいか検討し研究す
 るに役立つ。

- ・四季の変化と太陽の位置
- ・東側と南側との日ざしの違い
- ・曇りの日の階上、階下の明るさ比較
- ・窓の位置による明るさの関係
- ・窓の大きさや部屋の明るさの関係
- ・カーテン、スリガラスの効用
- ・風の入る部屋
- ・アルミ流動実験
- ・模型で気流の実験

窓の開閉と気流
 窓の關係
 窓の方向とつけ
 方、開き方
 ・北窓の必要と冬
 に備える工夫
 ・いろいろな窓
 ・採光通風共に理想的な家
 卒の内容で理科教材のみでなく、体育教材
 としても国工教材に発展できる。

社会

海上輸送 小五年 二巻 一八分
 工業地帯成立の要因である原材料は、国
 内国外に散在している。その原料製品等
 の大量輸送の方法として、海上運送の意
 義の重要性を知り、更に組織と施設の強
 化の必要を知らせる。

・積出港の景観 若松港の貯炭場とつ
 み出したの状況

11・12月の教材映画紹介

・船を動かしている主体は船舶会社と
 高主である

- ・船の施設 設備を示す
- ・船を動かす人々の働き
- ・石炭を大量消費する所
- ・工業地帯と港の關係
- ・燐鉱石、砂糖、塩、棉花、小麦

・船会社の仕事
 ・現在の外航航路
 ・貨物量と船舶のトン数の比較
 ・これからの日本の産業と貿易の關係
 から、必要な措置は何か
 卒の内容で「補充教材」の「工業と貿易

「を指導する際参考になる。貿易の現況
 や、輸出入品、船舶トン数等若干のズレ
 があるので補説の必要がある。」

理科

自動車はこうして動く

中三年 二巻 一六分

自動車の全般をえがいたもので「交通
 機関—自動車はどうして走るか」の単
 元に利用できる。自動車の構造と動作、
 自動車の運転の仕方、自動車の種類、ガ
 ソリンエンジンの原理などの理解に役立つ
 つものである。
 ・近代交通の形自動車部の部会での交通

の様子
 ・自動車の構造

- ・エンジン(ガソリン)の爆發力、気化
- ・四サイクルエンジンの動作、はず
- ・み車について実際の自動車のエンジ
- ・ンを切断したわかりやすいもの
- ・放熱そうち、排気そうち、動力伝導
- ・そうち(クラッチ)変速機、自在接手
- ・推進軸、差動軸、タイヤ、かんしよ
- ・うそうち、探向そうち、制動そうち
- ・自動車の運転の仕方、発進、停止、登
- ・坂
- ・自動車の種類

・自動車の種類
 などの内容であり実際の自動車について
 説明されてるので
 解りやすく面白い。
 自動車を手に取って
 学習出来ない場合な
 ど是非使用されたい。

社会

城下町 中二年 一卷 一二分

・都市の成因にいろいろあるがその一つ
 城下町を描いたもの。その代表的な金沢
 について調べてある。歴史江戸時代の単
 元に利用して当時どのような町が造
 られ現在どのように移り変わってきたか
 を考えさせるに役立つ

・岡崎もそうであるが川を利用し要路
 害の地に城を造った
 ・不便な狭小路、見通しの悪いまがり
 くねった道が多い
 ・蓋屋町などよばれる同業者の町が
 のこっている
 ・武士は階級によって住む町がちがっ
 ている等のことに気付くであろう。

社会

・中二年 一卷 一分
 宿場町 一つである宿場町ほどのようにし
 てきたのだろうか。それは交通機関が徒
 歩、馬、かごと非常にゆっくりしたもの
 で行なわれたため道中の宿泊場所が沢山
 必要であった。このフィルムは静岡果日
 坂の宿に入ホットをあてている。
 ・宿場町のしくみ、本陣、問屋場等
 新しい道ができ鉄道がしげ息にさび
 れる様子

・結局時代の流れにより、また交通機
 関の発展により変わっていく町のよ
 うすを知る事ができる。

視聴覚教材コンクール迫る

一 部門

ノハジ 十六分の部

天然色 白黒別 一卷六分以内

2. 幻燈の部

天然色 白黒別 駒数三〇枚以上

3. 紙芝居の部

生徒作品も可

4. 組写真の部

キャビネ版 四枚以上一組

5. 録音テープの部 一本五分以上

二. 開催日時 十一月下旬

(兼コンクール十二月の予定)

三. 表彰 各部門毎に一・二・三位

表彰出品者全員に参加賞

映ひ 巡の 回手

第三学期の巡回映画

中学校向第三回番組 至二月十七日

劇映画 (冬休み中断)

夜同中学

人形劇映画

夕笛吹き王子

解説は、月報第十八号に掲載してある

小学校向第三回番組 至二月十五日

記録映画

百獣物語 全八巻

解説 光映画社製作

滅びゆく仏頂アフリカ大陸における巨象狩、ライオン狩、ゴリラ狩、インドの奥地にアマゾンの魔境にとどろく百獣の咆吼、ワニ狩等を撮影したスリルと迫力に満ちた記録映画である。

漫画映画 近代映画社製作

小鬼の橋 全一卷

二人の少年がいたずら小鬼をにがしてやった返礼に小鬼が一夜でりっぱな橋をくれた話。

中学校向第四回番組 至三月十六日

劇映画

絶天怒色

大映株式会社製作

一粒の麦 全十二巻

監督 吉村 公三郎

解説 福島取を臨時編成の集団就職列車が出發しようとしている。この中に平田中学の井上先生が、離舞の不安と緊張に硬飛った表情の卒業生十一名を引率している。発車のベルに叫びあう両親と少年たち。どよめきの中に井上先生一行は相沢校長沼田イチ子先生等に見送られて東京へ出發した。

上野へ到着した一行は下谷小学校の校庭に集合。ここで各地区の職安の係員が各雇傭者たちに卒業生の引渡しを行なうのだ。渡辺梅夫はそば屋、一茶庵へ、新井香代は大沼病院へ、西山寂は須山自動車修理工場、実、次男、樵三らは鉄工場、四郎と誠はガラス工場へと、少年少女たちは心細そうに井上先生に別れを告げると、都会の騒音の中に消えていった。夕子、明子、かつの三人は浜松郊外の織物工場へと就職していった。

都会で働く少年少女から、苦勞を攻きとばした明るい硬りが、井上先生のもとにとどけられる。井上先生はその一つ一つを、やがては後につつくであろう三年生たちに読んでやるのだ。しかし、そうしたいことばかりはつづかなかった。井上先生自身の人生問題

教育者としての煩悶の上に出舞した生徒たちの勤め先も世の変転と共にさびれ、またつぶれ、そして病に倒れていった。

少年少女たちに襲いかかってくる不断の苦難、大都会に誇かれた一粒の麦はどう育っていくだろうか。

ニユー入映画 全一卷

小学校向第四回番組 至三月十六日

劇映画

トビ助冒險旅行 全八巻

解説 新東宝映画株式会社製作

人形梗いのトビ助全ケンがお福ちゃんと旅をして、お福ちゃんのために恋しいお母さんを探して何百里、旅から旅の不思議な国をめぐるく昔々のお話です。

ニユー入映画 全一卷

注意事項

一粒の麦 大映作品。トビ助冒險旅行、新東宝作品は、生徒を対象とする巡回映画以外に御使用ならないで下さい。特に、一般対象の夜同上映は固くおことわりします。

昭和三十六年度の巡回映画の予定として、出来るだけカラー劇映画を巡回するつもりです。

專任者 退職のごとば

鷗見 靜夫

秋深くもみじの巨も一段と濃くなってまいりました。諸先生方には何かと御忙がしい事と思ひます。

此の度家幸の都合により甚だ勝手ながら十月三十一日をもって退職させて頂きました。視察教育の重要な仕事の一端をさせて頂いた事は各学校の先生方の手厚い御指導と御援助の賜と心中より深く感謝いたしますと同時に厚く御礼申し上げます。五年か月という長い間色々御迷惑を御掛けしました事も多かったです。いままが深く御詫言いたします。退職後は当分家幸の手伝いをいたす心算でございますが五年間に学びました教育の仕事の重要性を私なりに何かの形で活用したいと存じております。

一々参上し御礼を申し述べるのが本意でございますが、紙面を御借りいたしまして失礼いたします。最後に皆様の御多幸と御奮闘を御祈りいたします。

映画

「ぼくのぼうけん」をみて

じろうくんは、わんぱくですがいいことをしました。わるもんをやっつけて、けいさつにほめられて、ぼうびをもらって、おかあさんとわかれて、せんちょうさんになったので、わたしも、じろうくんみたいにやってみようと思いました。じろうくんは、わるもんをみつけて、けいさつにとどけたので、とってもいいことなと思った。おかあさんが、しんぱいしても、かえってきておかあさんにしらせるのでいいことと思いました。わるもんがしたにいのをしらないでしたをみたら二人ともピストルをもって「うまくいったぞ」といっていた。それをみて、びんをしたにおとしました。そして、わるもんは、だれかがいるかなと思って、ピストルでうとうとしたらねこがおったので、びっくりして、うっことをやめたことが、おもしろかった。

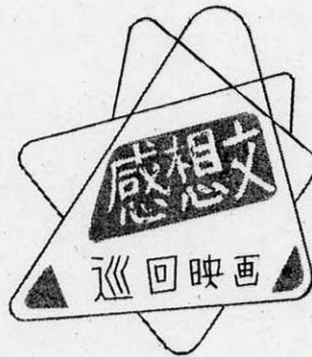
矢北小 二年

とりい やすえ

ぼくの冒険

矢北小六年 石川 頼子

ぼくの冒険という映画を見て、私もあんな冒険をしてみたいな。次郎君のお父さんは、ある魚船の船員であった。夏休みが始まりました。友だちは、みん



などこかえ遊びに行くのに、次郎君はどこへも行けません。そこで、お父さんを見送りに行ったついでに、みんなにだまってお父さんの船に乗ってしまいました。私は、遊びに行きたい気持はわかるが、だまって行ってしまうのはよくないと思う。でも、今まであれほどまじがれて、いた船に乗った気持はどんなだったろう。それに海上保安部の人達ともなかよ

くなれた。始めは、こわい人たちだと思っていたら、とってもやさしい人たちは、かりなですぐなかよくなれたのだらうと思えます。その帰り、次郎君たちは、保安部の人さがしてくれた船にとま

た。その夜次郎は、たいへんなことを見てしまった。その事をいくら、大人の人に話しても信じてくれなかった。そこで次郎君の心になにものが強く燃え上がってきた。それは、あの冒険すべき心であった。男の子ならば、このぐらいの勇氣は、あってもいいと思えます。

映画について

井田小五年二組 徳井 かおる

学校で時々映画をやってくれるので、少し前に見た「ぼくの冒険」というのはよかった。あの子供は勇氣があると思つた。お母さんは子供のことをはかして信用しない。へこういふことは私のお母さんにも時々あります。どろぼうを見たという子供のことを信用しないので、子供は自分の力でどろぼうをつかまえようとした。私は見ていてどうなることかとドキドキした。子供は平気なのでびっくりした。どろぼうをやっ

つける方法は、私も考えてみたがわからなかった。で子供はどうするかと思つて見ていたら、次々とすばらしい考えを働かせて活動してあやういところどうとうけいさつに知らせて、どろぼうをつかまえてしまった。船長からもらった千円のお金を一番大事な時に使つたのは、子供が頭もよかつたし、運もよかつたのだと思つた。あの子供の勇氣とちえを、私もほしいと思つた。私だったら、どろぼうをみただけでたおそろしくてふるえて居ただけだらうと思つた。

十月には、「遊び場」という題の映画を私達井田小の先生が、井田小の子供達を映画に出して作つて下さつた。これは、「よい遊び方」「悪い遊び方」を考へさせる映画だと思つた。自分達が映画に出てるので、この映画の出来上るのがとてもたのしみだつた。この映画に私も大ぜいの子供の中の一人として出て来た。なんだか映画はいゆうになつたみたいでおかしいような、うれいような気がした。

映画で「十五少年漂流記」みたいなものもみたいと思つた。科学方面のものも、たとえば人工衛星とか、実験など学校の理科の時間では道具が不足でやれないことでも、映画でやってみせてもらえんといふなと思つた。

私はほんこのこと、毎日映画をみたいのですが、それでは、勉強がやれなくなるから一週間に一っぺんぐらい見たいと思つた。